
QL check 履歴

21/07/15 ver 1.3

- ・「めっき無し」の場合、板厚が1.2mm以外の場合でも基準強度が205N/mm²になっていた不具合を修正
- ・「データ読み込み」を行った際、計算書に出力されるデータ名が、読み込み前の名前で表示されてしまう不具合を修正
- ・計算結果画面において、鉛直荷重時の合成スラブ自重WDLおよびLWTL、水平荷重時の合成スラブ自重WDLの数値表示方法を、「四捨五入」から「切り上げ」に変更（水平荷重時のWFは、以前から「切り上げ」）

21/04/06 ver 1.2

- ・打込み鋸の耐力を変更
- ・起動時の「デッキ幅方向」の「接合間隔Py」が、間違って200mm固定となっていたのを、300mmで可変な状態に修正
- ・「鉄骨梁との接合・耐力」の数値が、「頭付きスタッド」を選択していない時でも変わってしまう不具合を修正

20/12/24 ver 1.1

- ・計算ボタンを押した後、耐火チェックを行う前に印刷（耐火付）をすると、耐火の判定が反映されないまま出力されてしまう不具合を修正

19/11/06 ver 1.0

- ・『QL_Check for win』の耐火認定（FP060FL-9101、FP060FL-9095、FP120FL-9113、FP120FL-9107）を本プログラムに統合
- ・プログラム統合に伴い、プログラム名称を「QL check ver. 1.0」に変更
- ・耐火認定の追加（FP120FL-0194、FP120FL-0197）
- ・耐火認定のチェック画面および印刷出力される耐火認定番号を、デッキ種類（QL99-50/QL99-75）によって分けるようにした
- ・耐火認定のチェック画面において、耐火認定番号に耐火仕様の名称を併記するようにした
- ・地震時積載荷重に「99999」まで入力できるようにした
- ・荷重に「その他（数値入力）」を選択した際、地震時積載荷重のデフォルトを「9999」から「99990」に変更
- ・「頭付きスタッド」選択時のデッキ長さ方向接合間隔(Px)のデフォルト値を「600mm」から「300mm」に変更
- ・多重起動防止機能を追加
- ・終了の際、データが編集されていたらデータ保存の確認をするようにした

End
